

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 1 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 4 年 5 月 30 日 (月) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403、404 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 小倉 壮平、角野 仁美、木村 いほ子、雲尾 周、佐藤 裕紀、清水 隆太郎、 司山 園美、白神 道子、竹田 暢美、山岸 則子 計 10 名 ※敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、教育総務課教育政策室長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館 長、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐、生涯学習センター職員 3 名 計 10 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 教育次長あいさつ</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>4 職員自己紹介</p> <p>5 議長・副議長の選出 ○議長に雲尾周委員、副議長に佐藤裕紀委員が選出されました。</p> <p>6 報告事項</p> <p>(1)社会教育委員について ○報告資料 1 及び令和 3 年度報告書「社会教育による次世代育成の実践事例と推 進方策」に基づき、雲尾議長が社会教育委員の職務や役割等について説明を行 いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2)教育委員会の組織について ○報告資料 2 に基づき、事務局が教育委員会の組織及び所管業務等について説明 を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3)教育ビジョン第 4 期実施計画について ○資料番号なし「新潟市教育ビジョン第 4 期実施計画」に基づき、教育総務課教 育政策室長が実施計画の生涯学習・社会教育の施策にあたる部分の説明を行 いました。 【主な質問・意見等】 ・学校教育についての説明は、小中学校をイメージしているか。 ⇒幼稚園から高校くらいまでをイメージしている。 ・学校には大学、大学院もあり、社会教育から学校教育に戻る人もいる。ま た、大学によっては 65 歳以上を採用する入試もある。社会教育と学校教育 を行き来することもあるため、そのようなことも表していただけるとよい のではないか。</p>

内 容	<p>(4) 令和 4 年度 社会教育関係予算について</p> <p>○報告資料 3 に基づき、各所属長が所管している事業及び予算等について説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館とこども未来部との連携促進について、令和 3 年度と比べて令和 4 年度は予算の増減があったのか教えてほしい。 ⇒ 予算の増減はないが、公民館では妊娠期・乳幼児期の家庭教育学級を実施し、こども未来部では保健的な面から乳幼児期の子育て支援を行っており、それらの事業の連携について協議を行っている。 ・ 新潟市の公民館はとても進んでいると思っている。こども未来部との協議の結果、社会教育の分野がさらに厚く、子育てがしやすくなり、それが親たちへのエンパワーメントにつながるような施策をとっていただきたい。 ・ 「地域と学校パートナーシップ事業」について、市内小中学校 167 校への予算の分配は、一律な額で行われているのか、それとも地域特性等に応じて分配に傾斜をかけているのか教えてほしい。 ⇒ 事業の予算規模のうち 8 割強がコーディネーターへの報酬であり、傾斜配分となっている。小学校、中学校などの校種別や学級数に応じて傾斜をかけ運用している。 ・ コミュニティスクール事務員と地域教育コーディネーターを兼ねている割合はどのくらいか教えてほしい。 ⇒ 昨年度の段階で 7 割程度。 ・ 新潟市全体の予算の中で、教育関係の予算はどのくらいを占めているのか。 ⇒ 新潟市全体の歳出総額約 3,922 億円のうち、教育及び生涯学習関係は約 570.3 億円となっており、全体に占めるパーセンテージは約 15%程度である。 <p>(5) 社会教育委員会議開催日日程及び各種大会日程について</p> <p>○報告資料 4 に基づき、事務局が令和 4 年度の社会教育委員会議日程及び、各種研究大会の日程等について説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問や意見はありませんでした。 <p>7 意見交換</p> <p>「第 35 期社会教育委員会議のテーマについて」</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、小学校、中学校、高校、大学、専門学校、特別支援学校の児童生徒が職場体験に来ることが多いが、企業の学校に対する理解は低く、学校（教員、地域教育コーディネーター）にとって企業の敷居は高いと感じられがちである。大きく「企業と学校のかかわり方」ということを考えていけたらよい。 ・ 今、東区は産業のまちというコンセプトを掲げている。東区なら産業に特化して「仕事やお金に関する教育」を行うなど、各区の特色・地域資源を生かして連携していくことが大切。 ・ 小学校の P T A 会長として、悩みながら活動を行っている。例えば講演会をやりたいというときに、生涯学習センターの力を借りるなどして地域人材のネットワ
-----	---

<p>内 容</p>	<p>一くをつくることができれば、PTAも、もっとおもしろいことができるのではないかと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校のPTA会長をしていた時のPTA規約には、子どもの健全育成だけではなく、「会員の資質を高める」という一文があった。そのため、PTA会員の親睦を深める活動を継続し、会員の資質が高まってきた。規約は大切なので、例えば各区PTA連合の規約などの表記について支援、整備をすることも、社会教育団体に対しての支援と考えられるのではないか。 ・ 高校の地域教育コーディネーターは、横の情報交換が難しい。どのように地域連携をしていけばよいのかというところで悩みながら進めている。 ・ 子どもたちを育てていくという部分で、教員や地域住民などいろいろな人に社会教育や地域と学校が連携していくことの大切さを知ってもらいたい。どうすればすそ野が広がり、活発になるのか。今、コーディネーターの研修会も定期的に行われているが、もっと突っ込んだ話ができるような勉強会などの機会がほしい。 ・ 人口減、人口流出にかかわり、教え子が進学等を機に新潟を出ると、その後、戻ってこないということが話題になっている。優秀な人材ほど新潟を出て行ってしまいうという現状がある。例えば、「自分が地元生まれ育ってよかった」ということを子どもに思ってもらいたいというのが、ふれあいスクールの一つの考え方。いったん進学で外に出たとしても、また地元に戻ってくる人材を育てたい。 ・ 社会教育施設の「施設」というところが気になっている。施設となるとその場所を指すことが多い。子育て会議であったり、自治協議会であったり、いろいろな分野でいろいろな人がいろいろ考え、活動しているが、地域は一つ。子どもたちが魅力を感じるような地域になっていく視点で他と一体となって社会教育もかかわっていく。 ・ 「子どもたちが魅力を感じるような地域になっていく」という視点で社会教育もかかわっていく。「学・社・民の融合」の取組が始まって15、6年が経ち、当時の子どもが大人になっている。その時にかわいがられた子どもたちは、その後、いろいろな意味で地域に還元している。自分の子どもは、子どものころに体験したことを今でも覚えていて、故郷を自慢に思っていることが言葉の端々から感じられる。 ・ 図書館の敷居が高いと感じている人がまだ多い。そういう現状の中で、いかに図書館が楽しい場所であるか知ってもらいたい。漫画でも絵本でも自分にぴったりくるものが図書館にはある。教育ビジョンにある市民との協働にもつながると思うが、市民が敷居の高さを感じていることについてそうではないことを伝えられるとよい。 ・ 今、これまで本流でなかったところ、マイノリティであったところの幅がどんどん広がっているのではないか。マイノリティな部分の幅が広がっている部分も見据えながら、それをどう捉えていくかというところを今後考えていくことが必要。 ・ 学校の地域教育コーディネーターや地域団体が学校を支える仕組みについて考えたい。 <p>総合学習（田植え体験）の受け入れ団体として取り組んでいるが、学校から頼まれていないと動けない状況があり、少しもどかしさを感じている。（5月に田植え</p>
------------	---

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

<p>内 容</p>	<p>なのに 4 月に教員の異動があり新学期にならないと活動がどうなるのかわからない、など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生き抜く」「標準」という表現から外れた人を支えていく社会教育の在り方を考えていくことも必要ではないか。「ケア」「弱さ」「マイノリティ」などの視点も大切にしながら進めていけたらよい。 ・素朴に毎日が楽しいと思える学びは何か、学校や地域の中でそういう場を保障できたらおもしろい。 ・今の世の中には余白がないと感じている。多様な価値をもつ学びの場が世界のいろいろな場で起こっている。今、新潟に何が重要かという視点で考え直したい。 ・人口流出の話題にかかわって、高校までの段階で挑戦体験をつくれるとよい。「新潟は自分が挑戦できる場だ」という実感があると、いつか新潟に帰ってきて挑戦しようという子が増えるのではないか。 ・立場によってものの見方が変わってくる。いろいろな意見がある。それを整えてみてはどうか。私たちが学んだことを市民の人たちにつなげていくことが大切ではないか。 <p>8 その他 ○第 2 回の会議について、7 月 21 日（木）午後 3 時からクロスパルにいがたで開催することを確認しました。</p> <p>9 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0 名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 35 期新潟市社会教育委員会議（第 1 回）次第 ・ 報告資料 1 わたしたちのまちの社会教育委員さん！ ・ 報告資料 2 新潟市組織機構図（教育委員会事務局・社会教育関係） ・ 報告資料 3 令和 4 年度当初予算総括表 ・ 報告資料 4 第 35 期会議日程・各種日程 ・ 資料番号なし 新潟市社会教育委員に関する条例 ・ 資料番号なし 新潟市社会教育委員の会議運営規則 ・ 資料番号なし 第 35 期新潟市社会教育委員名簿